

小児食物アレルギーに対する 経口負荷試験

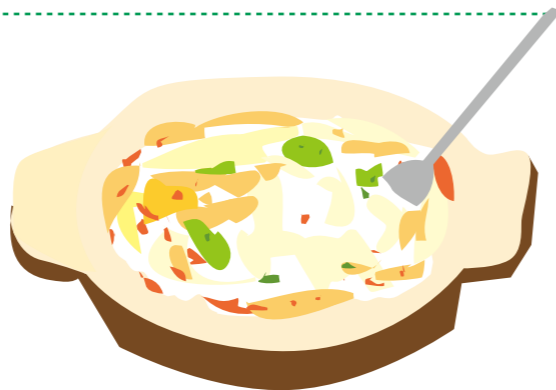
～患者さんとご家族のQOL向上のために～

● 食物アレルギーとは

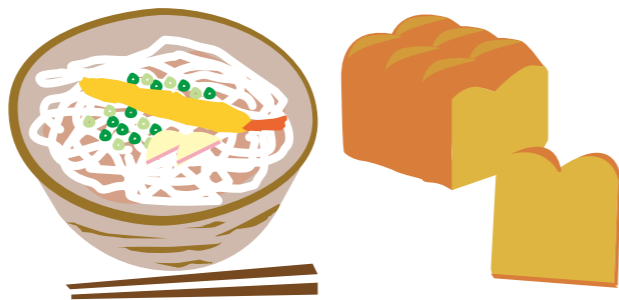
食物アレルギーとは、特定の食べ物に対して、体の免疫が過剰な反応を示し、発疹・咳・腹痛等、体の様々な箇所に症状が起こることを指します。重症の場合は、アナフィラキシーショックという状態に陥り、血圧の低下や意識障害が起こり、命に関わることもあります。乳幼児においては、卵・牛乳・小麦が3大アレルゲンとされています。これらは年齢を重ねると自然に治ることも多いとされています。しかし、市販の食材や学校の給食にもよく使用されることから、これらを長期間完全除去することは、生活の質や身体発育にも大きな影響を与えます。



鶏卵を使った料理



牛乳を使った料理



小麦を使った料理



■説明は
小児科 病棟医長
杉本 真弓
(すぎもとまゆみ)
■問い合わせ先
小児科外来
Tel. 088-633-7132
(平日8:30～17:00)

患者さんとそのご家族へのメッセージ

食物アレルギーでの食事制限は患者さん本人やご家族のQOLを左右する大きな問題です。経口負荷試験で安全に食べられる量を知り、少しずつ食べていくことは、QOLや予後の改善にも有用です。少ない量でも食べることが難しい患者さんには、研究段階の治療ではありますが経口免疫療法という方法もあります。食物アレルギーでお困りの方はご相談ください。

● 経口負荷試験について

徳島大学病院では、食物アレルギーが疑われる患者さんや食物アレルギーと診断され原因食物を除去中の患者さんに対して、経口負荷試験を行っています。当院ではアナフィラキシーの既往や血液検査で抗原特異的IgE値が高いなどハイリスクの患者さんに実施することも多いため、原則一泊入院で行い、病棟スタッフ立ち会いのもと、アレルギーの原因とされる食物を30分程度の間隔を空けながら少しずつ食べていき、安全に食べられる量を確認していきます。食物アレルギーの予防や寛解には腸の免疫が重要な役割を果たすことが知られており、原因食物を症状の出ない範囲で食べることによって腸でアレルギーを抑える免疫が誘導されると言われています。特にアトピー性皮膚炎の患者さんは、食物アレルギーも併発する可能性が高いとされますが、湿疹を改善させた上で乳児期から少量の卵を食べることで鶏卵アレルギーの発症を抑えられるという研究結果が報告されています。一方、年齢の進んだ小児患者さんは、原因食物に対して「こわい」という感情を持ってしまい、実際にはアレルギーが改善しているのに食べられないということもあります。これらのことから、早期に試験を行うことが望ましいと言えます。

● 徳島大学病院での取り組み

当院の経口負荷試験では、重症度や患者さんの希望に応じて個々の目標摂取量を設定し食べられるようになることを目指して実施しています。検査後の自宅摂取や増量については、外来で定期的に指導を行い、経口負荷試験を繰り返すことで安全に実施できるように配慮しています。ただし、アレルギー症状を誘発する可能性のある試験であるため、体調のすぐれない患者さんや同意のいただけない患者さんには実施できません。

